

先進治療病棟

診療科 血液内科、小児科、移植外科

病床数 24床

看護師数 看護師長 1 名、副看護師長 2 名、看護師 20 名

主な疾患

血液疾患：急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、再生不良性貧血、小児固形腫瘍等

臓器疾患：肝不全、腎不全、胆管炎、胆管狭窄、胆管閉塞症、尿路感染症、蜂窩織炎等

治療・検査

血液内科・小児科では、血液疾患患者に造血幹細胞移植、化学療法を行っています。治療により免疫機能が低下した状態が続くため、血液検査で免疫細胞の状態や炎症反応、薬剤の血中濃度などを測定します。また骨髄検査なども行い血液を作る機能の評価も行います。

移植外科では、腎臓や肝臓の生体移植を行う患者の術前、術後の看護を行なっています。また移植後の合併症の看護や移植後の臓器の状態を観察するため腎生検、肝生検を行なっています。

先進治療病棟は、病棟全体がNASAクリーン基準を満たす特殊な空調により、バイオクリーンルーム（無菌室）をはじめ、清浄度の高い環境で治療が行えるように整備されています。

血液疾患を抱える患者に対し化学療法や造血幹細胞移植など高度な治療を行うため、常に全身状態の管理を行います。看護部認定輸血療法看護師やがん化学療法看護師が、患者の状態を観察しながら抗がん剤や輸血の投与を実施しています。血液内科は造血幹細胞移植患者に対し、移植前から緩和ケアチームや移植コーディネータ、理学療法士等他職種と協働し、安全で安楽な医療・看護が提供できるよう努めています。

小児科は成長発達段階に合わせて、チャイルドライフスペシャリスト(CLS)、臨床心理師、小児専門看護師、院内学級の教員、理学療法士等の他職種と連携し、患児だけでなく両親のストレスや不安の軽減に考慮した関わりを行っています。

移植外科では、腎移植、肝移植の術前、術後の管理を行っています。手術に対する不安や術後の身体的・精神的苦痛を緩和できるよう、医師やリエゾンと連携を図り取り組んでいます。そして、退院後も免疫抑制剤などの内服管理や日常生活で配慮する点等について、移植コーディネーターと協働し退院支援を行っています。

看護の特徴

